

たわわ

TAWAWA

地域で生きる障害者を支える会通信

発行 2003年5月29日

34号

「地域で生きる障害者を支える会」会報

住所：横浜市港北区下田町6-31-8

活動ホーム「しもだ」内

TEL 045-562-3600

FAX 045-562-5991

今年の活動に向けて

さわやかな季節5月もあっという間に過ぎ、「たわわ」をお届けする日がきました。会員更新の季節でもあり、多くの方たちのお便りに励まされています。

振り込みの手続きも、お忙しい日常の中で、なかなか大変なことと存じますが、一人一人同志の皆さんが増えることは、障害者達にも仕事として関わる職員達にとってもまた会員同志にとってもとても励みになり、頑張る力になります。

より多くの人達で考え、多くの人で仕事を分担することで、私たちの活動もより充実し、目標も実現しやすくなります。

障害のある人も、ない人も誰もが地域の中で自然に生き生きとくらすよう、そして一番支援の必要な重度重複障害者の人達を、私たちにできることで支援していきたい。というのが、私たちの考えです。ぜひお知り合いの方にもお声掛けください。



平成15年度第一回総会のお知らせ

昨年はチャリティーコンサートや、重度重複障害者活動写真展の開催など、より多くの皆様のご協力を得て、資金の準備を積み重ねるとともに、より多くの方たちにご理解を得る機会を持つことができました。

今年も、会員・賛助会員の皆様のご意見を出し合って、活動の方向を考えていきましょう。

つきましては、下記により15年度第1回目の総会を開催したいと思います。

皆様の日常もお忙しい事と存じますが、お繰り合わせの上ご出席下さるようご案内致します。

1. 期日：平成15年 6月 16日(月) 10時30分より
2. 会場：活動ホーム「しもだ」訓練室
3. 議題：1) 平成14年度活動報告、会計決算報告について
2) 平成15年度活動計画案、予算案について
3) 2館目グループホームへの取り組みについて
4) その他



遠慮のないお付き合い

櫻井 徹

「ちょっと立ち寄って手伝ってくれる人がとなり近所にいるといいなと思います。友達みたいに気軽に相談にのってくれる人がそばにいと、障害のある人も家族も暮らしやすいと思います。」と、めがねの声はいいです。

私もその様な隣人になりたいと常々思っています。又、多くの人がそう思っているのではないかと感じています。しかし、これがなかなか難しい問題を秘めています。それは一言でいえば「遠慮」。障害のある人の側にもお手伝いしたいと思っている人の側にも作用する日本人に特有の感情ですね。たとえば、「遠慮のない＝不躰な人間に見られやしないか」「余計なおせっかいではないか」「たびたびでは相手にいやがられるのではないか」「相手に無理をさせているのではないか」等々。せっかくお手伝いしたい(または、してもらいたい)という気持ちがあるのに「遠慮」してしまう事が多くないでしょうか。そういう気持ちが動く人同士だから一緒にやれるのですね。

お互い「遠慮」という気持ちがあるのを承知で、それをとりあえず横に置いておいて、もっと遠慮の無い付き合いが出来たら、いいなと思っています。

デイサービスの場 活動の拠点

「活動ホームしもだ」の第15回バザーに参加

5月は連休でだいぶ短く感じますが、障害者達が日中通っているデイサービスの場「活動ホームしもだ」で行われたバザーの準備のために忙しい日が過ぎました。

「活動ホームしもだ」は、地域の協力を得て親達が立ち上げ15年の月日が経過、横浜市の補助のもとに運営されてきました。今年からは、制度が変わり国の支援費が入る事業所として活動しています。

年中行事となっている地域交流バザーも15回目となりました。関わる障害者の親達はもちろん、地域の多くのボランティアさんや民生委員のかたたちを総動員し、スタッフだけでも300名近くになる大掛かりのものです。

この大きな活動を作り出してきたエネルギーの上に、支える会の生まれる土壌も作れたのだと思って、感謝、感謝のイベントです。私たち「支える会」からもボランティアを含め16人のスタッフが参加し、よい汗を流しました。

「支える会」としても別に福祉コーナーに出店し、56,000円の売り上げがありました。





めがねのこえ

5月の連休に 軽井沢に行ったとき母と二人でぶらりと佐久市の障害者自立生活支援センターを たずねてみました。車で1時間ほどのところでした。いつもその地方で 障害者たちが どのように生活しているか知りたいと 思っていたからです。

広い地域に6万人ぐらいの 人口なので障害者も少ないせいかわかりやすく わかっていませんでした。

でも 知的障害者が おもに通う作業所が 何か所かあることがわかりました。 また、何人かの 熱心な人たちが N. P. O. で活動しているということでした。

重い障害の人たちが、どうしているのかは わかりませんでした。

家の中で かくしてしまっているのではないかと聞いて 私はおどろきました。

横浜でも 不便なことはあって もっともっと かわってほしいと思うのですが、 佐久の人たちは なぜないしょで引っこんでいるのかと思いました

親たちも 疲れるだろうし 家の中でずっと暮らすのは障害者もつまらないと思います。

いろいろな事ができて1人暮らしをしたい人は 八王子や相模原など福祉の活動の進んだところへ うつつてしまうのかもしれないとも聞きました。

* * * * *

そのセンターで 車イスの青年に 会いました。

学生の時に けがをして 夏の暑さが身体に悪くなったので10年前 軽井沢に近い涼しいところへ 引っ越して来たと聞いて 私は びっくりしました。

私たちは 春や夏の良い時だけ行くのに 寒いところで冬を過ごせるのかしらと 思ったからです。とても 明るくて おもしろい人でした。

これから 友だちになって いろいろお話を聞いて 教えていただいたり 横浜のことを話したり出来ればいいなと思います。

大原友子

会員からの一言

「よつばホーム」の設立とその後の活動は、地域で生きていくことのモデルとして、いろいろなことを教えてくれます。今年度もよろしくお願ひします。

岡本 美知子

頑張ってください。「花みずき」もやっと開所できる事となりました。沢山の方のお力添えのおかげでございます。まだ、元気のある間、私達もグループホームにどの思いはあります。 島崎

今月のよつばホーム

はじめまして。大谷友子（おおたに ともこ）と申します。
昨年の3月に大学の福祉学科を卒業し、1年弱入所施設の非常勤職員として働いていました。4月より常勤職員としてよつばホームでお世話になっています。

私にとってよつばホームの第一印象は忘れられません。それは「あ、本当に家だ」ということです。グループホームなのだから、入居者の方にとっても職員、関係者の方々にとっても当たり前のことだとは思いますが、しかし私にとっては、とても新鮮な感覚でした。あたたかい雰囲気につつまれて夕飯を食べ、テレビを観たりおしゃべりしたり…。この1つ1つの普通さが、私には衝撃的でした。

実習期間から数えて2ヶ月ほど経ちましたが、私はよつばホームがとても好きになりました。それは私にとってもうれしいことですが、その気持ちを単なる自己満足に終らせないように努めるのがこれからの私に必要なことだと感じています。入居されている方が、本当に自分の家だと思えるように、いつでもくつろげる場所になるように、たくさん頭を悩ませ、工夫していきたいと思っています。

それと何より、入居者の方々との信頼関係を大切にしていきたいと思っています。信頼してもらえるようになるにはあと何ヶ月、何年かかるかはわかりませんが、ゆっくりでも関係が築けていかれたらいいなと思っています。

今後とも、よろしくお願ひ致します。

ご入会・ご継続ありがとうございます。(敬称略)

《会員》

菅原 賢 鈴木 仁市 村山 悟美 鈴江 美博 阿部八重子
高島 慶子 竹生真喜子

《賛助会員》

鈴木 恒夫 高安 克典 高安 晴美 高安 恒晴 高安 希和
直井真紀子 金子瑠美子 川口たまえ 岡本美知子 井上 禮子
松本 直子 石阪勢津子 島崎八代子 渡辺 隆利 馬場 綾子
赤瀬 福子 白川田倫代 大谷 友子 阿部 太二 阿部 エミ
山本 暁子 三上 文子 島崎八代子
由井 昌子 斉田 弘子

《団体》

港北区肢体不自由児者父母の会

